男女平等について

さて、別に歴史の授業をご教授するつもりではございません。

皆様もご存知でしょうが、黒人差別は法律上では無くなりましたが、今も尚、アメリカで根強く残っているのも事実です。

それと同じように、男女差別も未だにアメリカには存在します。それこそ、女性初の大統領候補であるヒラリー・クリントン氏などを筆頭に女性の地位向上を目指す活動がたくさんあります。

ジャパンでも同じように、男尊女卑。「女性の地位向上を」と謳う発言活動がありますが、この活動によってジャパンをそれに変化させる事ためにはどれ位の時間が掛かるのでしょうか？

ただでさえ、ホフステッド指数と言う国民性を表す指標でジャパンは競争、勝ち負けなどを重視する国としてトップクラスで、職場では血の滲むような努力と長時間働く事が求められるわけで、そんなゲームに、そんなゲームに女性が男性と同じように参加して活躍出来るか？となると非常に難しい事であると言うのが私の意見では無くて、現状です。

ただでさえ、変化に億劫で慎重である日本の国民性と女性が活躍しにくいゲームのシステムであるわけで、対立する現状維持の多数派と変化を求める少数派の勝負は、像とアリ。

何が言いたいか？

ゆっくりと起こる変化や素早く起こる変化。変わらない事や変わる事がある中で、女性の地位向上はゆっくりとした変化である。歴史の視点から見れば、このような変化は１００年単位の変化だと推測します。ですから、今女性の地位向上で活動している人達はその日を目の当りにする事なく死ぬ確率が高く、何も変わらない可能性もあるわけです。

それなら、素早い変化に視点を切り替えて見てはいかがでしょうか？

例えば、女性の地位がより確立されている国に行く事。あなた自身が起業をして女性に優しい会社を作る事と言うように、対立される事なく、女性の地位が向上した後の環境を手に入れる事も出来る世の中なわけです。

それでも、「日本を変えたい！」と言う愛国心があって、「日本じゃないといけない！」と言うならその誇りには敬意を表しますが、別に日本じゃなくても、今の時代、自分の国を作る事も出来るわけですから、そちらの方は確率としては現実的では無いかと言う論理です。

ただもし、「何となく海外は怖いから」「自分で起業なんてあり得ない」「大手の会社在籍のブランドは欲しいから。そんな中で女性がもっと働きやすい環境にして欲しい」と言う訴求は通用しないのが、現状のジャパンかと思います。

社会進出と言う視点で言われる事が多い「女性の地位向上」。しかし、そもそも社会、ビジネスと言うのは男性のゲームであってと言う話で、女性が進出する立場であって、それで女性が「ああだ、こうだ」と言うのは、そもそも如何がな物か？と言う話はまたの機会で。